

庭に「ナツミカン原樹」が

にしもとひでお
西本秀雄さん

83歳 (大日比区)

、と言う。

ご自身の健康管理は、「毎朝塩水でうがいをし、一杯の水を飲むこと。それと毎月1回、かかりつけの病院で血圧を測ってもらっています」と。「健康と寿命は違う。昨日まで元気であっても、今日交通事故で死ぬことだってある。私も75歳まで単車に乗っていたが、息子が危ないから乗るのをやめろと言うので免許を返した。最初は不便で仕方がなかったが、人に迷惑をかけるし家族にも迷惑がかかるから」と話す。

趣味を聞くと「旅行に行くのが楽しみでした。行った先々でこけし人形を買って帰りました。若い人と一緒にツアーはきつくなって最近あまり行かなくなった。人形を見ると思い出します」と言う。

毎月第3土曜日の午後1時半より仙崎公民館和室で俳句を始め、来年は満30周年を迎えます。

花草木の名、動物の生息、生活等、四季の移ろいを作句の過程で覚えてきました。またその自然に自分の心情を重ねて詠むこと、それは自分が生きてきた

わくわく
ひろば

市民の皆さんのページです
あなたの情報で、ひろばは
さらにイキイキ ☎ 231117



中谷 貞女さん
(洲崎町区)

エンジョイ
仲間達

⑤5

四季を楽しく学ぶ

〜紫津浦句会〜



証ともなりました。

年頭の初句会、春は名所旧跡を訪ねての吟行、秋の月見句会と多彩に楽しみながらの句座は和気あいあい、大きな充実感を味わっています。

会員の平均年齢が70歳に及ぶ昨今、若い方の豊かな感性で伝統をふまえての新しい俳句文学を継承していただきたく、入会を心よりお待ちしております。

洪木中区の有志20人が運営する、農産加工工場「ふれあいハウス」が完成、3月26日から営業を開始しました。

施設は、国道316号線大ヶ峠トンネルと大ヶ峠トンネルの間に建設された。木造トタン葺平屋建てで、広さは56平方メートル、大型冷蔵庫や調理台を備え、地元で取れる農産物を使って角寿司、餅、ワサビ漬、仕出し弁当などの製造を予定している。

この取り組みのきっかけは「道の向かいに地区の人たちが運営している百円市『ふれあい朝市』があり、平成6年から毎週



ふれあいハウス連絡協議会
代表 大杉 勲さん
(洪木中区)

農産加工工場がオープン

洪木中区に

ちよっと小耳にはさんだ

④8

日曜日の早朝から営業しています。お客さんから、アン餅や加工品はないかとの要望がたくさんあって、地区の人と話し合って事業の導入を決めました」と大杉さんは話す。

営業日は月曜、火曜日を除く週5日間。20人のメンバーが4、5人でローテーションを組んであたる計画。販売は店頭及び注文により対応する。「オープンしてもしばらくは試行錯誤が続くと思うが、みんなで頑張りたい」と意欲を話す。

(注文及び問い合わせ先

「ふれあいハウス」 ☎ 233600)

